

会社の概要

会社名	東洋合成工業株式会社
本社	東京都台東区浅草橋1丁目22番16号 ヒューリック浅草橋ビル8階
設立	1954年9月27日
資本金	1,618,888,703円
従業員数	688名(2020年3月31日現在)
事業内容	・ディスプレイ(液晶並びに有機EL)用、並びに半 導体用として各露光波長に対応した(紫外線、 KrF、ArF、EUV各世代)感光材、ポリマー製品 ・半導体・電子材料向け高純度合成溶剤、香料向 け化学品、液体化学品の保管管理・物流倉庫業
ホームページ	https://www.toyogosei.co.jp/

役員

(2020年6月25日現在)

代表取締役社長	木村 有仁	常勤監査役	森 寧
常務取締役	出来 彰	監査役	宮崎 誠**
取締役	平澤 聡美		越山 滋雄**
	宮澤 貴士		
	渡瀬 夏生		*社外取締役
	鳥井 宗朝*		**社外監査役

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当の基準日	3月31日 中間配当を実施するときは9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、 予め公告いたします。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL https://www.toyogosei.co.jp/ir/koukoku.html ただし、電子公告によることができない事故 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 株式の諸手続き	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。 特別口座をご利用の株主様は、みずほ証券 株式会社およびみずほ信託銀行株式会社 0120-288-324(フリーダイヤル)までお問い合わせください。



〒111-0053 東京都台東区浅草橋1丁目22番16号
ヒューリック浅草橋ビル8階
TEL 03-5822-6170 FAX 03-5822-6189
E-mail : ir@toyogosei.co.jp



第70回定時株主総会決議ご通知

当社第70回定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されました。

報告事項

**第70期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)事業報告及び
計算書類の内容報告の件**
本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案 取締役6名選任の件**
本件は、原案のとおり承認可決され、取締役に木村有仁、出来彰、平澤聡美、宮澤貴士、渡瀬夏生、鳥井宗朝*の6名が選任され、それぞれ就任いたしました。
*社外取締役
- 第2号議案 監査役1名選任の件**
本件は、原案のとおり承認可決され、監査役に越山滋雄が選任されました。
- 第3号議案 補欠監査役1名選任の件**
本件は、原案のとおり承認可決され、補欠監査役に萩原正一が選任されました。
- 第4号議案 役員賞与支給の件**
本件は、原案のとおり、当事業年度末時点の取締役6名(うち社外取締役1名)及び監査役3名(うち社外監査役2名)に対し、当事業年度の業績等を勘案して、役員賞与総額43,835千円を支給することとし、各取締役及び各監査役に対する金額は、取締役に
ついては取締役会に、監査役については監査役の協議に一任することで承認可決されました。
- 第5号議案 当社株式の大規模買付行為に関する対応策(買収防衛策)継続の件**
本件は、原案のとおり、「当社株式の大規模買付行為に関する対応策(買収防衛策)」を継続することで承認可決されました。



第70期 報告書

2019年4月1日 ▶ 2020年3月31日



業績ハイライト

■決算概要

当期は、年度終盤の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う景気の後退があったものの、先端半導体ロジック市場、香料市場を中心に好調に推移しました。特に、EUV世代向け感光材、先端半導体向け感光材および高純度溶剤の販売が増加しました。また香料材料は、海外販売が増加しました。この結果、売上高は前期比6.4%増の24,455百万円となりました。営業利益は、同40.1%増の2,184百万円、経常利益は、同31.5%増の2,061百万円、当期純利益は、同58.2%増の1,852百万円となりました。

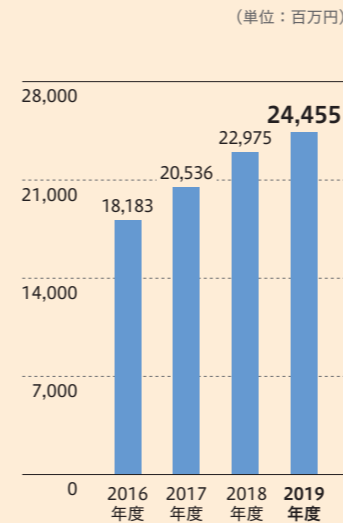
	前期比
売上高	24,455百万円 +6.4%
営業利益	2,184百万円 +40.1%
経常利益	2,061百万円 +31.5%
当期純利益	1,852百万円 +58.2%

■当期のポイント

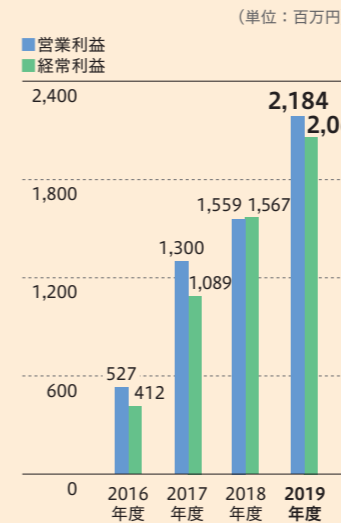
- POINT 1** 売上高は、営業利益、経常利益、当期純利益すべてにおいて、過去最高を更新。当期純利益は、繰延税金資産の計上に伴う一過性要因により大幅増益。
- POINT 2** 感光性材料セグメントは、生産能力増強に伴う費用の増加分を、EUV世代向けおよび先端半導体向け感光材の販売伸長により吸収し、増収・増益。
- POINT 3** 化成品セグメントは、先端半導体向けおよび海外香料メーカーへの販売が増加した一方で、メモリ・その他電子材料向け溶剤は減少。ロジスティックは好調を維持し、増収・増益。

業績概要

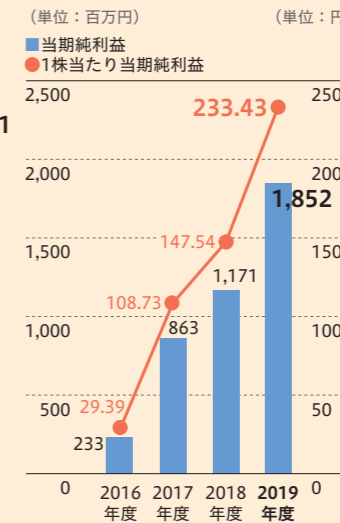
売上高



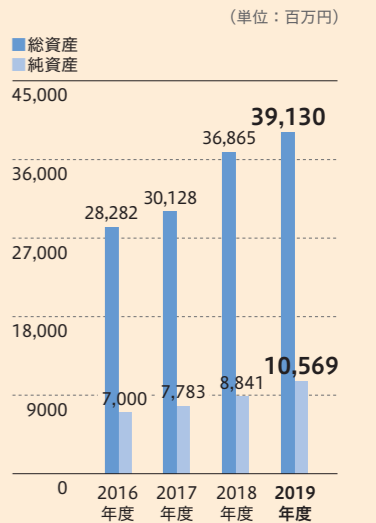
営業利益/経常利益



当期純利益/1株当たり当期純利益



総資産/純資産



トップメッセージ

中期経営計画の達成に向け、 全社一丸となって取り組んでまいります。



代表取締役社長

木村 有仁

当期の業績について

当期の世界経済は、米中貿易摩擦に伴う関税の引き上げ、東アジアや中東における地政学的リスクの高まりなどから、国際貿易や製造業の活動に悪化が見られました。一方国内は、緩やかな景気回復基調で推移していましたが、期の後半には消費税増税、新型コロナウイルス感染症の拡大等により、景気後退が見られました。このような状況下、当社の主な需要先である半導体市場では、メモリ市場が低調に推移したものの、ロジック市場は先端領域を中心に好調が続き、香料市場も安定的に拡大しました。

以上のような結果、当期の売上高は24,455百万円(前期比+1,480百万円、+6.4%)、営業利益は2,184百万円(前期比+624百万円、+40.1%)、経常利益は2,061百万円(前期比+494百万円、+31.5%)、当期純利益は1,852百万円(前期比+681百万円、+58.2%)となり、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益すべてにおいて、過去最高を更新いたしました。

セグメント別概況

感光性材料セグメントは、世界的な半導体およびディスプレイの堅調な需要に支えられ、後半、新型コロナウイルス感染症拡大による需要の減速も見られず、当社の製品販売は堅調に推移しました。特にロジック向け製品は、EUV露光を使用するデバイスの生産が本格化し、先端半導体向け製品の需要が大きく拡大するなか、新規ポリマー製品も順調に増加しました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大によるリスク対策として、サプライチェーン上の在庫の確保の需要も3月以降活発化し、販売増加に寄与し、感光性材料全体の売上は大きく増加しました。また、今後の世界的な需要の拡大に対応する生産能力増強として、新製造棟の建設を進めており、2020年9月末の完成を目指しております。今後も新規材料の研究開発、製造技術開発、品質管理の高度化を進め、更なる事業の拡大と収益性の向上を図ってまいります。

化成セグメントでは、先端半導体プロセス向け高付加価値・高純度溶剤が堅調に推移しました。一方で、スマートフォン・データセンター向けの半導体メモリの需要は徐々に回復の兆しが見えたものの売上は減少しました。また、香料材料製品は、品質の安定化および安定供給に努めたことに加え、新規顧客の開拓により海外香料メーカーを

中心に売上は順調に増加しました。ロジスティック部門は、継続的な顧客満足度向上に努めた結果、タンク契約率、回転率ともに高水準で推移しました。

今後も、当社が蓄積してきた高純度合成技術と精製技術に更なる磨きをかけ、積極的な拡販と生産性向上に取り組んでまいります。

中期経営計画「TGC300」の進捗

当期は、5カ年の中期経営計画「TGC300」の2年目となりました。売上高は業績予想比で4%の未達となりましたが、経常利益は+21%と大きく超過することができました。足元では新型コロナウイルス感染拡大による世界経済への影響や先行きが不透明な状況が続いておりますが、次期も計画値の達成に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。

株主還元について

株主の皆さまへの還元につきましては、安定配当の維持を基本としつつ、安定的な経営基盤を確保しながら、業績、配当性向、内部留保などを総合的に勘案して決定しております。これらの方針を踏まえ、当期の配当は、期初の計画通り、1株当たり年間20円とさせていただきます。今後も、事業の拡大と財務体質の改善とのバランスを勘案しつつ、株主の皆さまへの還元を行っていきたくと考えております。

今後の見通し

感光性材料や高純度溶剤の分野は、5Gインフラ投資や情報通信技術・AIの進展によるデータセンター需要などにより、中長期における一層の拡大が予測されており、短期的には在宅時間の拡大によるPC・ゲーム機の販売増加等もあり、堅調な需要を見込んでおります。また香料市場についても、世界的にトイレタリー製品などの底堅い需要に支えられ、市場の緩やかな拡大継続を見込んでおります。

しかしながら、世界的な経済活動は、新型コロナウイルス感染症の拡大による消費の減退、スマートフォンをはじめとする通信デバイスの販売減少や自動車市場の減速など、不透明な状況が続くと思われ、先行きを予測することはますます難しくなっております。当社は全社の総力をあげ、従業員およびステークホルダーの皆さまの安全を最優先するとともに、さまざまな施策を講じ、事業への影響を最小限に留めてまいります。

以上のような状況から、現時点での次期業績予想は、世界的な景気減速や消費低迷の懸念や新製造棟竣工による固定費増などにより、売上高25,000百万円(当期比+544百万円、+2.2%)、営業利益1,800百万円(当期比△384百万円)、経常利益1,700百万円(当期比△361百万円)、当期純利益1,100百万円(当期比△752百万円)とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、何卒、当社にご理解を賜り、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年6月

木村 有仁

セグメント情報

感光性材料セグメント

業績の概況



新型コロナウイルス感染症の拡大による市況の減速は見られず、半導体およびディスプレイの生産は世界的に継続され、当社製品の販売も好調に推移しました。特にロジック向け製品は、新規EUV露光を使用するデバイスの生産が本格化したことで、EUV向けを含む先端半導体向け製品の販売が大きく拡大しました。また、3月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大によるリスク対策として、各サプライチェーンでの在庫の確保と思われる動きが活発化し、販売増加に寄与しました。

この結果、同セグメントの売上高は14,217百万円(前期比+1,605百万円、+12.7%)、営業利益は1,565百万円(同+507百万円、+47.9%)となりました。

化成セグメント

業績の概況



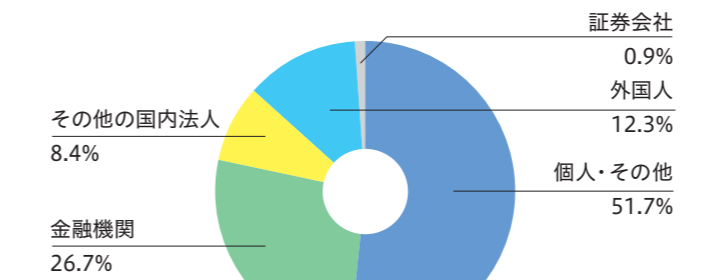
電子材料関連は、先端半導体プロセス向け高付加価値・高純度溶剤製品は好調に推移しました。また、スマートフォン・データセンター向けの半導体メモリの需要は徐々に回復の兆しが見えたものの売上は減少しました。香料材料製品は、新規顧客の開拓により海外の香料メーカーを中心に売上は順調に増加しました。ロジスティック部門は、引き続きタンク契約率、回転率ともに高水準で推移しております。

この結果、同セグメントの売上高は10,238百万円(前期比△125百万円、△1.2%)、営業利益は618百万円(同+117百万円、+23.4%)となりました。

株式の状況

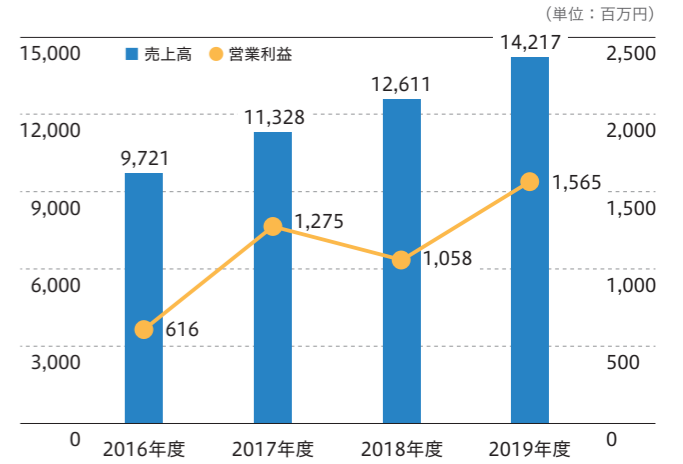
発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	8,143,390株
株主数	5,401名

株式の分布状況

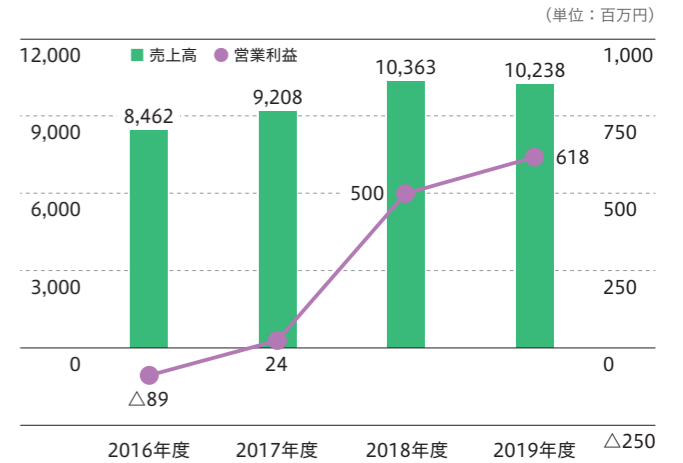


*自己株式を除く単元未満数を含む

売上高および営業利益の推移



売上高および営業利益の推移



大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
木村 有仁	1,094	13.8
木村 愛理	583	7.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	375	4.7
株式会社千葉銀行	298	3.8
株式会社きらぼし銀行	298	3.8
木村 正輝	278	3.5
BNPパリバセキュリティーズサービス (ルクス)	265	3.3
上田八木短資株式会社	254	3.2
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	248	3.1
株式会社TGホールディング	200	2.5
公益財団法人東洋合成記念財団	200	2.5

当社は、自己株式を206千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。また、持株比率は自己株式(206千株)を除外して計算しております。